神埼警察署協議会開催結果の概要

令和7年6月30日

会 議	令和6年度 第3回 神埼警察署協議会
開催日時	令和7年2月25日（月） 9：30 ～ 10：30
開催場所	神埼警察署 会議室
出席者	○協議会：吉富会長、馬郡副会長、田中委員 松木委員、池田委員 （5人） ○警察署：古川署長、中村警務課長、江口生活安全課長、 岡本地域課長、西田交通課長、警務係長 （6人） 計 11人
議 事 概 要	
<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶 委員の皆様には、ご多用の中、警察署協議会にご出席いただき、本当にありがとうございます。 また、神埼警察署の皆様には、地域の安全・安心のため、警察活動を推進されておられることに対し、感謝申し上げます。 前回の協議会では、署長から「交通安全に関する県民アンケート」を踏まえた交通安全意識の向上方策について」という諮問をいただき、協議しました。現在の施策を継続していただくことに加え、いろいろなアイデアを積極的に取り入れていただきたいと思います。</p> <p>協議会委員の皆さんには、日常生活の中で感じていることなどを積極的に意見し、神埼警察署の活動がより良い方向に導かれるよう、ご協力をよろしくお願い申し上げます。</p> <p>3 署長挨拶 委員の皆様には、ご多忙のところ、神埼警察署協議会にご出席いただき、ありがとうございます。 本年も、当署では様々な活動を行ってきましたが、特に犯罪の抑止・検挙に力を注いできました。 その結果として、佐賀県警察本部から優秀警察署として表彰を受けることが出来ました。これは到底、我々神埼警察署で成し遂げることが出来るものではなく、住民の皆さん、様々なボランティアの方々によるご協力の賜物で、まずはお礼を申し上げたいと思います。 また、コロナ禍以来自粛していた、協議会での視察等について、本年中に再開したかったのですが叶えることが出来ませんでした。令和7年度には協</p>	

議会の活動強化を踏まえ、様々な企画を実行したいと考えています。

異動により、神埼警察署の人員も大きく変わり協議会参加者も変わることになりますが、今後とも更なるご協力をお願い致します。

4 業務報告

各担当課作成の資料配布による書面報告

5 講話

(1) 詐欺被害防止講話（生活安全課長）

特殊詐欺には、ニセ電話詐欺（オレオレ詐欺、架空料金）、SNS型詐欺（投資、ロマンス詐欺）があり、SNS型は金額が大きく、幅広い世代が被害に遭っている。昨年中、県内では10億円を超える被害が発生した。

神埼警察署管内では、昨年中、

- ・ ニセ電話詐欺が7件
- ・ SNS型詐欺が4件

発生しており、被害額は5,000万円を超えている。

今年は1月に警察官、企業騙り、2月にオレオレ詐欺のいわゆる「アポ電」が多く架かってきている。特に息子を騙ったアポ電を16件把握しており、実際に神埼市内に住む80代、70代の女性が被害に遭っている。

2月20日に発生した事件は、典型的な手口で、まず息子を騙って株等で儲けたと話し、次に証券会社を騙る別の人物が「息子に税金未納があり、このままでは逮捕される」と話した後、弁護士を騙る人物が逮捕を免れる保証金等を準備させて、現金を取りに来るというものであった。

騙された母親が、地元の郵便局で現金を引き出そうとしたが、不審に思った局員に金の使い道を質問され、母親は息子の脱税を隠そうと「車の購入等」と嘘を付いたものの、結局引き出す事が出来ず、別の郵便局へ向かった。地元の郵便局員が先手を打ち、警察や他の局への通報を行い、別の郵便局に来た母親を引き留めて説得するも受け入れてもらえず、本物の息子と電話で話をさせ、やっと信用してもらい、被害を食い止めることができた。

この件では、受け子の専門学校生を逮捕したが、このように、被害は警察だけで防げるものではなく、金融機関やコンビニ等の適切な声掛等で、被害を水際で食い止める事が最も効果的である。広報メールや防災無線等、様々な方法で継続して被害防止を呼びかける必要がある。

(2) 交通安全講話（交通課長）

ア 令和6年中の発生状況

人身事故発生件数は、県内、管内ともに減少しているが、死亡事故は県内、管内ともに増加している。物損事故も増加傾向である。事故抑止活動は、発生が0になるまで実施していく。

イ 管内の状況

交通事故の発生は国道上が多く、半数以上が追突事故である。事故多発時間帯は、7時～9時、16時～19時が多い。

ウ 取締について

さざんか千坊館付近における暴走族取締の実施する。交通違反者に対しては、切符を切って終わりではなく、「違反をしない」「事故を起こ

さないための指導」等の情報発信も併せて行なっている。

エ 事故抑止キャンペーン等

市・町と合同し、国道34号線で「前を見よ作戦」を実施。そのほか、通学路の街頭活動、交通立番、赤色灯点灯による警戒、市役所や吉野ヶ里歴史公園等でのキャンペーンを実施した。

また、安全促進グッズとして、新しい反射材（LED付）等を配布するなど様々なアイデアを実施し、「見て、聞いて、実感してもらえる」ような、一般の方に響く活動を考えていく必要がある。

6 質疑応答

委員： オレオレ詐欺に引っかかりそうになった方から「事件後、詐欺の犯人から電話があったり、押しかけて来るかもしれないから怖い」と相談されたが、犯人が押しかけることがあるだろうか。

警察： 特殊詐欺で電話を架けて来る者は、入手した名簿等を使って手当たり次第に電話をしている。わざわざ特殊詐欺と見抜いた人の所に押しかければ、逮捕されるリスクが格段に増えることから、押しかけることはまず考えられない。

委員： 固定電話を解約してしまえばどうかと言う意見もあるが。

警察： 留守番電話やナンバー登録型にする等、有効なサービスもあるので、ご自身で検討してもらいたい。

委員： 最近捕まった詐欺の被疑者は県外の人か。

警察： 捜査中であり、詳細は言えないが、例えば「背広を着た若者が1人で田んぼ道を歩いている。」といった不自然な状況があれば、俗に言う「闇バイト」の可能性もあるので、注意してもらいたい。

委員： ロマンズ詐欺の被害者はどんな人が多いか。

警察： 年齢等とは関係なく、詐欺師はいろいろな「エサ」を投げて来る。被害者が興味のある内容を見つけ出して誘ってくるため、深入りする前に警察や家族、知人に相談して欲しい。

委員： 休みの日などに、大きな音のバイクが集団で走っていることがあるが、暴走行為をしていなければ取締りをすることは出来ないのか。

警察： 昼間に集団で走っているバイクは、SNS等で集合し、目的地までのツーリングを行っているものが多い。度々職務質問を行うが、違反事実はなく、違法な運転をしないよう指導したり、解散を促したりしている。

暴走行為に関しては、たまり場となる駐車場や道の駅等に管理者対策を申し入れているが、諸事情により封鎖等出来ない場合がある。目撃した場合は通報をお願いしたい。

7 答申

第2回協議会において諮問を受けた「交通安全に関する県民アンケートを踏まえた交通安全意識の向上方策」について、以下のとおり答申を行った。

県警察が実施した「交通安全に関する県民アンケート」によると、県民の交通安全に関する意識は未だ低調であり、神埼警察署では、

- 街頭活動時における広報・警戒の実施
- 街頭キャンペーンの実施
- 交通講話の実施

等、様々な活動を行っていることを踏まえて協議した結果、次のような方策が有効であると考えている。随時検証を行いつつ、新たなアイデアを積極的に取り入れ、市民の交通安全意識が向上する取組を粘り強く推進していただきたい。

(1) 記憶に残る広報等の実施

交通安全について関心を持ち、理解し、行動してもらうため、警察からの一方向の広報や講話だけでなく、質疑応答の時間を作ったり、話し合う機会を設けるなど市民の記憶に残る効果的な広報等を実施する。

(2) 交通安全に係る行動が市民の目に留まりやすい環境作り

警察職員は勿論、自治体や企業などにも呼びかけ、自転車ヘルメットの着用やハンドサイン横断を率先して実践してもらうなど、交通安全に係る行動が市民の目に留まりやすい環境を作り出してアピールする。

(3) 交通安全グッズの紹介と提供

市民が交通安全グッズに興味を持ち、積極的に使用するような、おしゃれなデザインの自転車ヘルメットを高校生や大学生に紹介したり、新しくより効果的な反射材を機会があるごとに高齢者等に配布する。

8 その他

次回開催は、令和7年6月以降を予定

9 閉会